

情報爆発論文特集の発行にあたって



情報爆発論文特集編集委員会

委員長 喜連川 優

2004年に申請し、2005年に採択された文部科学省科学研究費特定領域研究『情報爆発時代に向けた新しいIT基盤研究』は、2006年より計画班並びに公募班を含め本格的に始動したが、2009年に4年目を迎え、力強い成果も出始めたことから、本特集を企画することとした。当該特定研究では、情報爆発なる現象を21世紀における情報分野の大きな課題とみなし、当該現象から派生する多様な問題を自ら明らかにするとともに、該課題に挑戦するという研究のスタイルをとってきた。すなわち、開発対象ターゲットを決め、それに向かってシステムを構築してゆくというスタイルではない。このような研究スタイルの特長もあり、必ずしも特定研究に参画しておられない研究者の方々からも、情報爆発に対する問題意識を共有して頂き、数多く論文投稿を頂戴した。

情報爆発による価値創出は21世紀のITイネーブラであり、米国において2006年より研究が開始されているcyber physical systemや、IBM社のsmarter planet構想なども、膨大かつ多様な情報を戦略的に活用する

ことによる価値創出に焦点が置かれており、相通じるところが大きい。本特集により情報爆発研究がもっと活発化するきっかけになれば望外の喜びである。

本情報爆発論文特集は和文論文誌と英文論文誌において同時に企画がなされ、和文論文誌では総計41編の論文が投稿され、22編が採択、英文論文誌では総計42編の論文が投稿され、13編が採択された。論文査読の過程において編集幹事の先生方に多大なお世話を頂いた。深謝する次第である。

きつれがわ まさる
喜連川 優 (正員：フェロー) 1978東大・工・電子卒。1983同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程了、同年東京大学生産技術研究所に入所。2003から同研究所戦略情報融合国際研究センター長を務める。データベースを専門にし、データベース工学、並列処理技法、Webマイニング、大規模ストレージなどに関する研究に従事。文部科学官、情報処理学会副会長、文部科学省「情報爆発」の領域代経済産業省情報大航海戦略会議委員長、本年ACM SIGMOD E.F.Codd Innovation Award受賞。

情報爆発論文特集編集委員会

委員長	喜連川 優
幹事	河原達也・須藤 修・中野美由紀・松岡 聡
	山名 早人
委員	石川佳治・江口 浩二・大石雅寿・川嶋 宏彰
	黒橋 禎夫・河野 健二・後藤 玲子・櫻井 康志
	角 康之・田浦 健次朗・建部 修見・千葉 滋
	中川 裕志・原 隆浩・原田 達也・藤井 敦
	湊 真一・峯松 信明・森嶋 厚行・山本 倫也